

○11 番（宮原隆昌君）

11 番、宮原です。

自治会管理施設の LED 照明への改修工事の助成金について質問いたします。土庄町の公共施設、中央図書館や大部公民館、総合会館などは順次、LED 照明の改修工事が進められておりますが、土庄町内には 39 カ所の自治会館、6 カ所の憩いの家、その他コミュニティセンターなど 5 カ所の自治会管理の施設がございます。

これら避難所にも指定されている各地区の自治会管理施設の多くは蛍光灯を使用しており、蛍光灯は 2027 年末には製造が禁止されると、将来的に入手困難や修理部品の不足が予想されます。

そのために今後、早い時期での LED 照明への改修が必要となります。現状の土庄町の集会施設整備助成金の補助は、事業費の 3 分の 1 以内の額で、上限は 100 万円となっておりますが、人口減少により運営が厳しい自治会に対して大きな負担となることが予想されるため、LED 照明に限っての補助率及び補助金の上限の見直しについて検討が必要と思いますが、町の考えを問います。

○議長（濱野良一君）

総務課長 濱口浩司君。

○総務課長（濱口浩司君）

宮原議員のご質問にお答えいたします。

議員ご指摘の 2027 年度末の蛍光灯製造停止に伴う LED 照明への更新の必要性につきましては、町といたしましても、地域の防災拠点である集会施設の機能維持及び環境負荷低減の観点から、重要な課題であると認識しております。

現在、町内には自治会が所有・管理する集会施設を約 40 カ所あります。これらの施設維持を支援するため、町では毎年 10 月末を申請期限とする「自治会振興助成金」を設けておりますが、これまでのところ LED 照明への改修に対する補助の実績はございません。

ご質問の「補助率及び補助金上限額の見直し」についてですが、本補助金は、各地区の施設の維持管理を広く、かつ継続的に支援することを目的として運用しており、これまで多くの自治会において現行制度を活用し、計画的に屋根や外壁等の改修を行って来られた経緯がございます。こうした過去の整備実績や他の自治会との公平性を保つ観点から、現時点におきましては、補助率 3 分の 1 以内、上限 100 万円という現行制度の枠組みを維持してまいりたいと考えております。

今後も、現行制度の維持を基本としつつも、申請を検討される自治会に対しましては、見積もり内容の精査や年度を分けて、段階的な改修の提案など、現行制度の枠組みの中で円滑に手続きが進められるように、各自治会に寄り添っ

た丁寧な対応を進めてまいる所存でございます。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

宮原隆昌君。

○11番（宮原隆昌君）

自治会管理施設のLED照明の改修は、今後大きな問題になってくると思いますので、各自治会に早めに現状での補助制度の説明をお願いしていただきまして、次の質問に移ります。

土庄港の再整備について質問いたします。

過去、土庄港については高速艇切符売り場の耐震化、ターミナルビルの有効活用、フェリー乗り場の屋根などの一般質問をしてきましたが、残念ながら実現に向けた動きは私には見えていない状況です。

そんな中、国土交通省のホームページにも発表されておりますが、隣町において第2世代交付金が採択され、池田港の再整備事業がスタートしております。

小豆島の玄関口池田港再生利用として、令和11年度までに約15億円の事業費がつき込まれ、新バースの建設やモビリティ貸し出し施設、通路車両などが整備され、イベントの開催や、新航路の開設を目指した試験運行などが計画が掲載されております。

一方、土庄港周辺では、ホテルの解体や店舗の閉店が続いており、今後の土庄港の利用にぎわいについて、大変危機感を覚えておりますが、町長は小豆島の玄関口としての土庄港の整備についてどのようなお考えであるのか、質問いたします。

○議長（濱野良一君）

建設課長 赤谷淳君。

○建設課長（赤谷淳君）

宮原議員のご質問にお答えいたします。

小豆島の玄関口である土庄港は、地域の観光振興や経済活動において非常に重要な役割を果たしております。

現在、島内各港の再整備が進められている中で、土庄港の再整備については、特に注力しなければならないと考えております。

これまで、国の補助事業などを活用しながら、ハード・ソフト両面から土庄港のにぎわい創出、ハブ機能の強化に取り組んできたところです。

具体的には、民間事業者によるキッチンカーや土庄港からまちなかを結ぶホビー体験会の開催などのにぎわい創出、EVモビリティやシェアサイクルの導入、充電機能付き屋外ベンチの設置など、利便性と回遊性を高めております。

また、多言語対応の案内看板やフロアサイン、ハンズフリーのAI翻訳サー

ビスを導入し、初めて島を訪れる方々が安心して移動できる環境を整備するとともに、島内交通情報を発信するインフォメーションサイネージを設置いたしました。

来年度からも、国の補助事業、オーバーツーリズム補助を活用し、将来的な港湾の再開発や、交流拠点化に向けた基礎調査を実施し、最適な港湾空間の将来像や整備方針についての調査、検討を行う予定です。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

岡野町長。

○町長（岡野能之君）

宮原議員のご質問にお答えいたします。

土庄港は、古くから小豆島の玄関口として、人・物・情報の往来を支え続けてきました。土庄港は高松、岡山、豊島、宇野への複数航路を持ち、高速艇も就航しているなど、小豆島を代表する港と言っても過言ではありません。その港の機能をもう少し充実したものにするとともに、来訪者や利用者にとって魅力のあるウォーターフロントとして形成することが、本町のみならず小豆島の発展のために必要ではないかと思っております。

町が管理する施設は、港務所やターミナルビルなどありますが、ウォーターフロントの全体の魅力向上を図るためには、港の関係者である県や民間事業者も巻き込んだ事業を立ち上げていく必要があります。来年度予定としている調査事業は、こうした展望に立ち、実施しようとするものです。

すでに県や民間事業者とさまざまな協議をスタートさせております。調査事業により、土庄港再整備の全体像をハード・ソフトの両面から検討するとともに、官民の役割分担なども調整してまいりたいと考えております。

民間企業のアイデア投資も最大限活用し、土庄港が小豆島の玄関口としての役割を果たし続けられるよう、再整備や賑わいづくりに取り組んでまいります。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

宮原隆昌君。

○11番（宮原隆昌君）

町長、課長より、すでに香川県や民間事業者との協議がスタートされているとの答弁をいただきました。

国土交通省の最新の港湾統計によりますと、2023年では、日本の港湾旅客乗降人員ランキング、土庄港は何と全国10位、126万3014人が乗り降りしています。

ぜひこのランキングに見合う整備を進めていただきますようお願いして、質問を終わります。

